



私、こんな本を読んでいます

この夏、日民協の会員に加わらせていただくとともに、名ばかりですが新理事に就任いたしました。

今回「何でもいいからエッセイ風書いてみて」とこの原稿の依頼を受けたものの、何を書いていいかわからず、締め切り前日まで来てしまいました。仕方ないので、自己紹介代わりに以前読んだ本の紹介で許していただけますでしょうか。もとより書評などでできませんので、短い感想文です。

1 「雨森芳洲 元禄享保の国際人」(上垣外憲一、講談社学術文庫、2005年)

日韓関係の悪化が言われますが、私の姪っ子たちは韓国アイドルに夢中です。隣国の人たちとの関係を考えたとき、この本を思い出しました。

江戸時代の日朝外交に携わった雨森芳洲(1668~1755)の伝記本です。原本は1989年に中央公論社より刊行されました。

芳洲が生まれたのは滋賀県伊香郡高月町(現長浜市)。私の父も長浜市出身です。3年前に亡くなった母の本棚にこの本があったので、何となく手に取って読んでみました。

朝鮮語と中国語を話し、異文化への理解と尊敬を持ち、「互いに欺かず、争わず、真実をもって交わり候を誠信とは申し候」といって朝鮮外交に活躍した芳洲にゾーンときました。同時代の新井白石のように歴史の表舞台に立つことなく対馬藩で生涯を終えましたが、こんな人がいたんだなと思いました。

長浜市高月町にある雨森芳洲庵には芳洲の資料などが展示されています。芳洲が骨を埋めた対馬にも行ってみたいくなりました。

2 「ちっちゃな科学 好奇心がおおきくなる読書&教育論」(かこさとし+福岡伸一、中央公論新社、2016年)

絵本作家のかこさとしさんと生物学者の福岡伸一さんがコラボした本です。

かこさとしさんは昨年亡くなりましたが、「だるまちゃんとてんぐちゃん」「からすのパンやさん」「どろぼうがっこう」など、この方の絵本で育った人は多いと思います。私もその一人。今では3世代以上に読み継がれています。子供向けだけでなく、学術的にも完成度の高い科学の絵本や歴史の絵本

も多数あります。

そして、雑誌や新聞でも楽しいエッセイを書いておられる福岡伸一さん。著書「生物と無生物のあいだ」「できそこないの男たち」「世界は分けてもわからない」など、読めば生物学の面白さに引き込まれます。

この二人がコラボした本を読まない手はないでしょう。

3 「SNSで一目置かれる 堀潤の伝える人になろう講座」(堀潤、朝日新聞出版、2018年)

堀潤さんは、元NHKのキャスターで、現在はフリーのジャーナリストとして活躍するとともに、市民参加型メディアの育成に力を入れておられます。

今年の日弁連の憲法イベント企画に「憲法動画コンテスト」があり、人権をテーマにした90秒の動画を募集しています。堀さんは審査員の一人です。私はこの企画に関わらせていただいていることから、堀さんの本を読んでみました。

ツイッターやフェイスブックなど、ついていけないSNSのノウハウを学ぶつもりでしたが、それよりも「大きな主語より小さな主語で語ろう」「オピニオンよりファクト」など、人に伝えるときの心構えを学びました。

ということで、予定の字数に達しましたので、この辺で終わりにします。

「法と民主主義」今月号の読後のデザートになりましたでしょうか。お口汚しになってしまったらごめんなさい。

(弁護士 宮腰直子)

※編集後記

私も、「かこさとし」の絵本大好き、ほとんど全て読んでいます。娘も息子も。現在は孫が「水」の長い絵本を部屋一杯に広げて夢中です。時々「どろぼう学校」ごっこで遊びます。抜き足差し足遊び足……と。「からすのパンやさん」の頁を広げて、パン生地をこね、自家製のパンを焼いたり……。宮腰先生の一文から、我が家の昔を思い出しています。「ちっちゃな科学…」さっそく悪名高いアマゾンに注文！ 同僚の富樫さんの一歳になる赤ちゃんのお祝いも、「だるまちゃんとてんぐちゃん」シリーズで一す。(林 敦子)